

はじめに

True Focus（トゥルー・フォーカス）は、絶えず構図を変えながらオートフォーカスを使用する際に、課題となる問題を楽にする事を主な目的としています。

H4DユーザーマニュアルのP31-39には、True Focusに関する多くの情報があります。

True Focusの実践

H4Dにはカメラの後ろ側に新しくトゥルーフォーカスとラベルの付いたボタンがあります。これは前のモデルにあったAE-L（オート露出ロック）ボタンに代わるものです。両方のボタンで以前のようにカスタマイズが可能です。

デフォルト設定では、H4Dはトゥルーフォーカスを二通りの方法で使用できます。ひとつめはAF-Sモードで、カメラはH3Dモデルと全く同じ様に動きます。しかし、トゥルーフォーカスボタンを押す事で、トゥルーフォーカス機能はワンショットのみ行う事ができます。ふたつめは、H4Dがオートフォーカス選択メニューでAF-Tに設定する方法です。こうするとトゥルーフォーカスは継続して使用できます。両方の方法が下記に言及してあります。

注意する事-このトゥルーフォーカスの実行では、H4D内のセンサーはカメラがそれ自身の軸についての動きのみを検出するようになっています。つまりカメラが三脚に取り付けられて、左右、そして上下の動作（そして両者を組み合わせた動き）をするイメージです。テクニカルカメラで言うティルトとスウィングの動きに似ています。

横の動き、つまり横へ水平移動（シフト）したり、上や下へカメラが場所移動する動きはH4Dセンサーでは検知できません。

焦点合わせをして構図を変える時には、これを念頭に置いて行ってください。トゥルーフォーカスが正しく動作していないと思った場合には、まず三脚上で次に記す方法を試してください。

方法 1

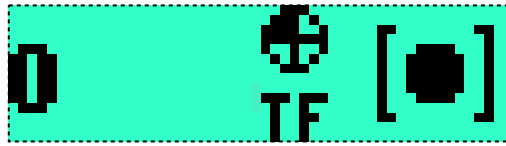
手順に従って、方法1のトゥルー・フォーカスの実演を行ってください。

1. オン-オフ/プロファイルボタンを一度押し、デフォルトプロファイルを選択してH4Dをデフォルトプロファイルに設定します。



ここでカメラは自動的にAF-Sモードになり、トゥルーフォーカスボタンはトゥルーフォーカスを設定します。

2. AF中心点を焦点の当てたい部分に向けて、トゥルーフォーカスボタンを押します。ビューファインダー内にAF確認を表す二本の矢印が現れたら、トゥルーフォーカスボタンから指を離します。TFロゴがビューファインダー内に現れ、短い警告音がします。



もし合焦の矢印が点灯しない場合は、もう一度トゥルーフォーカスボタンを押したままにして、ピープ音のそれらが表示されるまで繰り返してください。

3. 画像の構図を直し、シャッターを切ります。ミラーがアップの位置に持ち上げられた後に（カメラが回転されたり、構図変えした時ではありません）AFドライブが補正を行います。
4. トゥルーフォーカス・ボタンを再度押さない場合、カメラは次の撮影に備え、自動的にAF-Sモードに戻ります。

方法 2

手順に従って方法2のトゥルーフォーカスの実演を行ってください。

1. H4Dメニューで、オートフォーカスモードをAF-Tに変更します。



注意-このモードではシャッターを半押しして行うAFドライブは自動的に無効になっています。全てのオートフォーカス・コマンドはトゥルーフォーカス・ボタンで行われます。

2. AF中心点を焦点の当てたい部分に向けて、トゥルーフォーカスボタンを押します。ビューファインダー内にAF確認を表す二本の矢印が現れたら、トゥルーフォーカスボタンから指を離します。TFロゴがビューファインダー内に現れ、短い警告音がします。



3. 画像の構図を直し、シャッターを切ります。H4Dはトゥルーフォーカス補正を示す警告音を発します。ミラーがアップの位置に持ち上げられた後に（カメラが回転される時ではありません）AFドライブが補正を行います。
4. 新しいトゥルーフォーカス設定で、撮影状況が非常に似たものである限り、撮影を続ける事ができます。新しいフォーカスは最初のキャプチャーに準じて設定され、このフォーカス設定はトゥルーフォーカス・ボタンが再度押されない限り変更されません。それゆえ、もともとの撮影条件から大きく外れる場合には、新しい状況と考え、新しいトゥルーフォーカス設定が必要となります。そうなった場合には、上記の二番目の手順からやり直してください。